

報道関係各位

2019年10月10日

～ 工学院大学ソーラーチーム 世界大会参戦現地ニュース第3弾 ～

『工学院大学ソーラーチーム』世界大会スタートまであと3日！

優勝候補として現地で準備着々

世界最大級のソーラーカーレース「ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ」4度目の挑戦

工学院大学(学長:佐藤 光史、所在地:東京都新宿区／八王子市)の学生プロジェクト『工学院大学ソーラーチーム』が、10月13日に開幕する世界最大級のソーラーカーレース「2019ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(以下、2019BWSC)」参戦のため、スタート地点となるオーストラリア北部ダーウィンで現地での試走など最終調整を進めています。

【本件のポイント】

- 工学院大学ソーラーチームが10月13日開幕の「2019BWSC」チャレンジャークラス参戦に向け、ダーウィン(レーススタート地点)で試走など最終調整に励んでいる。学生が設計・製作した自然に学んだデザインの「Eagle」は、多くのソーラーカーの中でも異彩を放ち、レース前にもかかわらず世界各国のチームから注目を集めている。
- 10月9日には静的車検が行われ、車両の機構部分・太陽電池パネルや電装関係など様々な項目を念入りにチェックされるが、軽微な指摘のみで、レースを運営する大会本部からも高い評価を受けている。
- 動的車検(10月12日実施)の1つである、ヒドウンバレー・モータースポーツ・コンプレックスにあるサーキットでの試走では好タイムを記録。



静的車検の様子

【本件の概要】

10月13日に開幕する世界最大級のソーラーカーレース「2019BWSC」に4度目の参戦となる『工学院大学ソーラーチーム』は、オーストラリア北部ダーウィン(ノーザンテリトリー州)郊外での試走や調整を繰り返し、レース本番に向けた最後の準備を進めています。学生が設計し、2年間かけて製作した自然に学んだデザインの「Eagle」は、多くのソーラーカーの中でも異彩を放ち、レース前にもかかわらず世界各国のチームから注目を集めています。

10月9日には静的車検が行われ、車両の機構部分・太陽電池パネルや電装関係など様々な項目を念入りにチェックされましたが、軽微な指摘のみで、レースを運営する事務局から高い評価を受けています。また、動的車検(10月12日実施)の1つである、ヒドウンバレー・モータースポーツ・コンプレックスにあるサーキットでの事前試走では好タイムを記録しました。他にも、レース中に一定時間の停車が義務づけられているコントロールスポットで、ドライバーを中心とした動きのシミュレーションを行うなど、優勝を目指して抜かりなく準備を進めています。

『工学院大学ソーラーチーム』は、創立10周年を迎え、学生メンバーは300名を超えています。技術部・運営部・財務部などのグループに分かれ、車両の開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントなど全てを学生主体で取り組んでいます。産学連携により約50のサポート企業から最先端素材・技術の支援を受けるほか、各分野で先端研究に取り組む教員陣がアドバイザーとなって学部・学科の枠を超えた横断的な技術支援を展開しています。

【今後のチームの主なスケジュール】

10月9日～12日	静的車検及び動的車検
10月13～18日	本戦レース期間
10月20日	表彰式
10月23日	メンバー日本帰国

※『工学院大学ソーラーチーム』及び「2019ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ」詳細は別添の参考資料をご覧ください。

<取材に関するお問い合わせ>

学校法人 工学院大学 総合企画部広報課 / 担当: 樋口・松本・堀口

TEL: 03-3340-1498 / e-mail: gakuen_koho@sc.kogakuin.ac.jp

■工学院大学ソーラーチームとは

〈特設サイト〉 <https://www.kogakuin.ac.jp/solar/>

参考資料

“50年後の未来を考えた地球の持続的利用”をプロジェクトの理念に掲げ、学部や学科の枠を超えたメンバー300名以上が活動中。車両の開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントなど全てを学生主体で行っている。メンバーの成長のみならず、国連による「持続可能な開発目標(SDGs)」達成への貢献を目指す大学全体が取り組む活動の一つである。

チーム設立10周年に悲願の世界大会初優勝へ

工学院大学の学生プロジェクトは、学生グループの理工学に関する自主的な創造活動を活性化して、学生の創造性を育むと共に、社会でリーダーとして活躍できる人間的な成長を目指して活動。そのプロジェクトの1つである『工学院大学ソーラーチーム』は2009年にメンバー8名でスタートし、国内大会での連続優勝に留まらず世界大会への参戦を経験することで大きく飛躍、2019年には設立10周年を迎え300名を超えるプロジェクトチームに成長している。

大学の理念と強くシンクロした学生のチャレンジ

大学全体で挑戦する世界大会への参戦は、工学院大学が掲げる「無限の可能性が開花する学園」という理念の大きな実践の場となる。『工学院大学ソーラーチーム』は、車両をメインに扱う技術部、サポート企業との調整や広報を担う運営部、会計全般を管理する財務部に分かれ、車両開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントまで全ての役割を学生自らがしている。学生は自主的・能動的なチームの活動を通して、社会でリーダーとして活躍する力を養い、ソーラーチームでの活動を経験した卒業生の多くが、日本有数の自動車メーカーや関連企業において最先端の現場で活躍、日本の技術力を支えている。

“理工系大学”の特徴を生かし、豊富な研究資源・充実したものづくり施設を最大限に利用

制御工学を専門とする濱根洋人監督(工学部 機械システム工学科 教授)を筆頭に、日々、先端研究に励む機械・化学・電気・情報・建築分野から多数の教員陣が、学部・学科の枠を超えて横断的な技術支援を展開。また、2017年には総合研究所内に「ソーラービークル研究センター」を立ち上げ、最先端研究によって技術面をバックアップするとともに、キャンパス内の様々なものづくりの施設・設備を利用して車両製作に取り組んでいる。

新車両「Eagle」～“自然模倣”のデザインで空気抵抗を大幅削減～

2017年の前回大会終了直後から2年間をかけて学生自らが設計・製作しました。ソーラーパネルには人工衛星用太陽電池を搭載するなど、航空宇宙用の材料を利用した最新技術を搭載しています。車体先頭(ノーズ)は受ける風を車体後方へ綺麗に流すよう鷲(Eagle)のくちばしを模した形状で、“自然模倣”となる設計を行いました。また、学生たちが考案した多くのアイデアを単胴型車両に取り入れ空気抵抗を大きく改善しました。



工学院大学ソーラーチームの車両「Eagle」



6/27 新車両お披露目記者発表会の様子

■ブリヂストンワールドソーラーチャレンジとは

<特設サイト> <https://www.bridgestone.co.jp/bwsc/>

太陽光を動力源として、約5日間を掛けオーストラリア北部のダーウィンから南部のアデレードまでの約3,000kmの総走行技術を競う世界最高峰のソーラーカーレース。3つのクラスでそれぞれの基準に従ってレースを行う。夜間は各チームが広大な砂漠の中でそれぞれキャンプを張って過ごすなど、心身ともにハードなサバイバルレースで、2017年に行われた前回大会では19の国と地域から大学生を中心とする38チームが出場。今回大会では24カ国から53チームが出場予定。『工学院大学ソーラーチーム』はチャレンジャークラスに出場予定。



<2019ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ概要>

- 開催期間: 2019年10月13日(日)~20日(日)
- 開催場所: オーストラリア(スタート:ダーウィン、ゴール:アデレード)
- 主催者: 南オーストラリア州政府観光局
- 大会タイトルスポンサー: 株式会社ブリヂストン
- 大会クラス区分:
 - ・チャレンジャークラス/タイヤ4輪、ドライバー1名、速度を重視したデザインの車両で目的地までの順位を競う。
 - ・クルーザークラス/タイヤ4輪、ドライバー1名+乗員1名以上が乗車、エネルギー効率や実用性を競う。
 - ・アドベンチャークラス/過去の大会の規則に準じた車両など、上記2クラスの条件を満たさない車両も参加。
- 参加予定チーム: 53チーム(24カ国)

工学院大学ソーラーチームの主な参戦スケジュール

9月17日	メンバーの第一陣がオーストラリアへ出発
9月23~27日	オーストラリア南部のアデレードから北部のダーウィンに向かい、コース下見
9月27~10月6日	参戦車両の調整・試走
10月7~12日	静的車検及び動的車検
10月13~18日	本戦レース期間
10月20日	表彰式
10月23日	メンバー日本帰国



7/13 国内での試走を行った様子



レースはオーストラリア大陸を縦断する過酷な環境

工学院大学ソーラーチームの主な戦歴

2010年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	—	1号機は当時世界初となる4輪で初出場、約600km走破。
2011年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	準優勝	前回大会の経験を生かし約900km走破しチーム初の入賞。
2012年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	ソーラーカー部門とチャレンジクラスで優勝の2冠制覇。
2013年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) チャレンジャークラス	—	2号機 Practice を製作し参戦。完走できず途中数カ所にてトレーラー搬送。
2014年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	台風の影響でレース時間が大幅に減少するも、断トツの成績で優勝。
2015年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) クルーザークラス	準優勝	3号機 OWL を製作し参戦。レース走行はトップでゴールしたが総合順位で準優勝。
2016年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	大会新記録樹立、チーム史上初・女性ドライバー誕生。
2017年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) チャレンジャークラス	第7位	4号機 Wing を製作し参戦。レース直前のアクシデント(車両破損)もチーム力で乗り越えて完走。
2018年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	レース中の悪天候や車両横転のトラブルに直面するも接戦を制し総合優勝。

以上